



船橋市議会議員選挙 民主党公認

三橋さぶろう

(36歳)

船橋市の防災強化

消防団を強化し災害に備え、安心して暮らせる船橋へ！

阪神淡路大震災から 20 年が経ちました。船橋市も災害に備え消防局のほかに地域住民から組織されている消防団があります。消防団は地域の防災のために大切な存在ですが近年、全国的に消防団員が減少しています。千葉県内の消防団員は 10 年連続減少し、船橋市でも条例で定めた定員数 720 名を 3 年連続で下回っています。

私自身、消防団に所属していますが活動するには家族と職場の理解が必要で、とても大変なことだと感じています。

(裏面に続く)

三橋さぶろう プロフィール

- 1978年 長野県生まれ(36歳)
- 2001年 中央大学商学部卒業
株式会社カネボウ勤務
江東区健康スポーツ公社勤務
- 2008年 衆議院議員 野田佳彦秘書
- 2011年 衆議院議員 若井康彦公設秘書
- 特技: クロスカントリースキー
1998年長野オリンピックスタッフ
2002年ソルトレイクシティ・パラリンピック日本代表コーチ
- 家族: 妻、息子(2歳)

ご意見をお聞かせ下さい。

FAX:050-3488-3190

e-mail: funabashi@mituhashisaburo.jp

消防団員はなぜ減るのか？



消防団員は災害が起きると駆け付けますが、常勤の消防隊員とは違い普段は別の仕事をしています。そのため消防団のほかに、仕事や家庭も両立しながら活動しています。

消防団員の多く（全国平均で約7割）は会社などに勤めている、いわゆるサラリーマンです。勤め先の理解が得られず、勤務中に災害が起きても職場から抜けられなかったり、訓練に参加できなかったりと仕事と消防団の両立が難しくなっています。また、休日の訓練や防火活動などに参加するには家族の理解も必要です。

消防団員を確保するには？



・消防団への理解を広める。

防災上、消防団は欠かせない存在です。消防団員が勤める事業所や市民の皆さんに理解を広げ活動しやすくする取り組みと同時に、消防団へ入団してもらえ活動をもっと積極的に取り組むべきです。

・消防団の処遇改善。

消防団員は報酬を期待してはおりませんが、危険を伴う災害へ出動しても支払われる手当は低いのが現状です。（出動手当は1回2,200円）。処遇改善するべきです。

・女性の入団を促進する。

船橋市の消防団に入るには市内に居住又は勤務している方で、18歳以上の健康な方なら男女問わず入団できます。船橋市の消防団員の内、女性はわずか17名です。市はもっと積極的に女性が入団するよう取り組んではどうでしょうか？

2015年1月17日

三橋さぶろう

三橋さぶろう後援会

〒274-0063 船橋市習志野台5-11-7

TEL: 070-5360-3260

FAX: 050-3488-3190

e-mail: funabashi@mituhashisaburo.jp